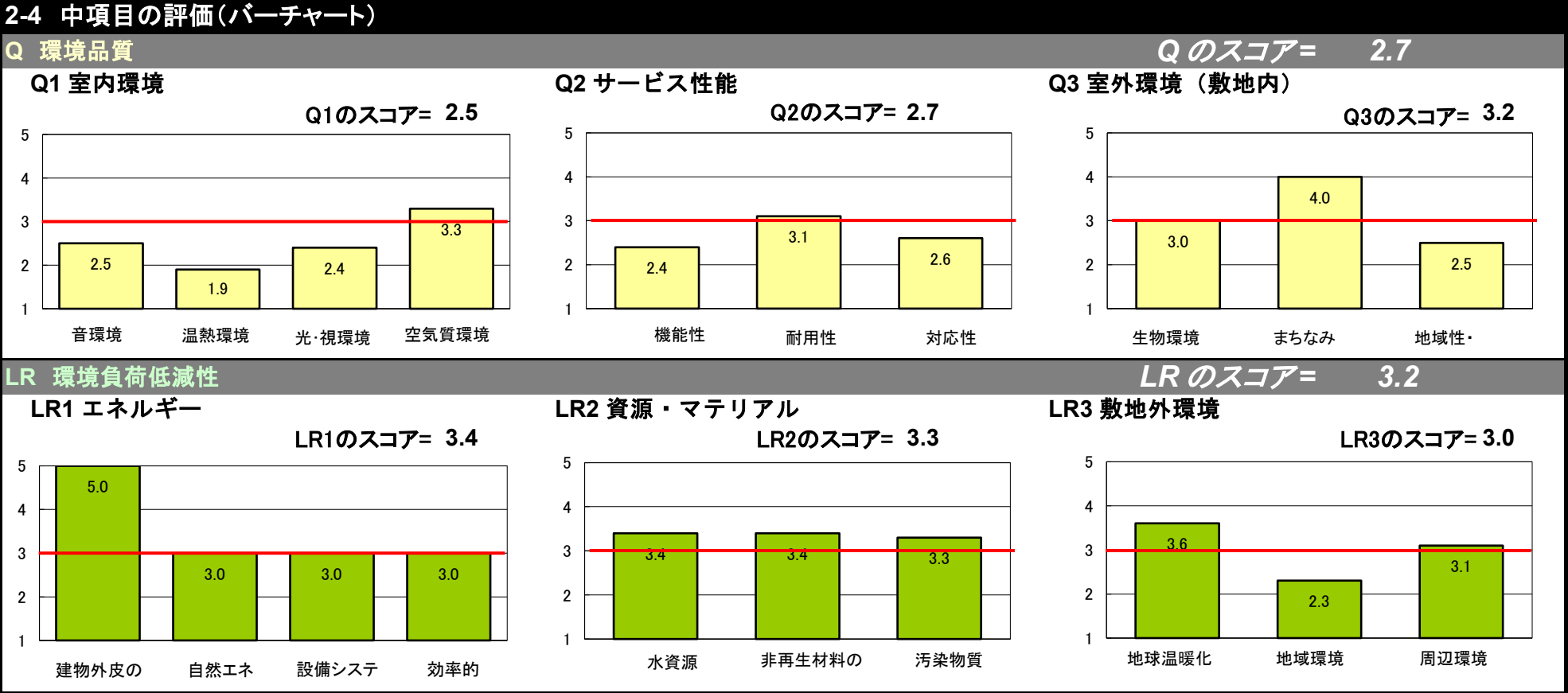
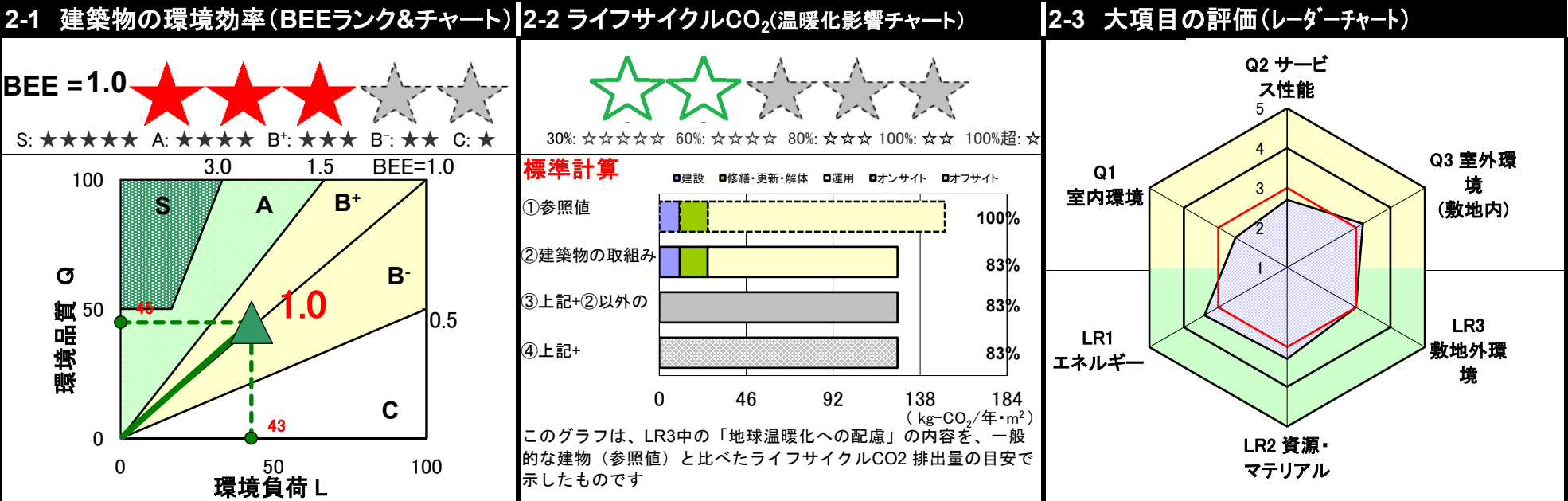


CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)JR兵庫駅第2NKビル開発	階数	地上13F, 地下0F	
建設地	神戸市兵庫区浜崎通3番4,3番5他	構造	S造	
用途地域	近隣商業地域, 防火地域	平均居住人員	1,030 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	物販店,病院,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年8月26日	
敷地面積	1,670 m ²	作成者	小川信幸	
建築面積	851 m ²	確認日		
延床面積	9,035 m ²	確認者		



3 CASBEE神戸 の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮
3.0	3.0	4.0
	Q-2/2.4 信頼性	
	3.0	
配慮の概要	配慮の概要	配慮の概要
-	-	まちなみ調和に配慮した景観計画
その他の配慮事項		
-		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
(仮称)JR兵庫駅第2NKビル開発

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
Q 建築物の環境品質									2.7
Q1 室内環境						0.40		-	2.5
1 音環境					2.7	0.15	2.3	1.00	2.5
1.1 室内騒音レベル					3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音					3.3	0.40	2.4	0.40	
1		開口部遮音性能	開口部遮音性能:T-2		5.0	0.44	5.0	0.30	
2		界壁遮音性能			2.0	0.56	1.0	0.30	
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	1.0	0.20	
4		界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	2.0	0.20	
1.3 吸音					1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境					1.7	0.35	2.2	1.00	1.9
2.1 室温制御					2.5	0.50	3.4	0.50	
1		室温			3.0	0.38	3.0	0.57	
2		外皮性能	断熱性能の高い建築材を採用		4.0	0.25	4.0	0.43	
3		ゾーン別制御性			1.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御					1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式					1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境					2.0	0.25	3.1	1.00	2.4
3.1 昼光利用					1.8	0.31	2.4	0.30	
1		昼光率			1.0	0.56	2.0	0.60	
2		方位別開口			-	-	-	-	
3		昼光利用設備			3.0	0.44	3.0	0.40	
3.2 グレア対策					1.0	0.28	4.0	0.30	
1		昼光制御	<宿泊部分>庇とカーテンを組合わせて昼光制御		1.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度					3.0	0.14	3.0	0.15	
3.4 照明制御					3.0	0.26	3.0	0.25	
4 空気質環境					3.2	0.25	3.5	1.00	3.3
4.1 発生源対策					4.0	0.50	4.0	0.63	
1		化学汚染物質	ほぼ全面的に告示対象外又はF☆☆☆☆の建築材料を使用		4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気					2.0	0.30	2.6	0.38	
1		換気量			3.0	0.50	3.0	0.33	
2		自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上		-	-	4.0	0.33	
3		取り入れ外気への配慮			1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理					3.0	0.20	-	-	
1		CO ₂ の監視			3.0	0.03	-	-	
2		喫煙の制御			3.0	0.97	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	2.7
1 機能性					2.4	0.40	2.6	1.00	2.4
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	3.0	0.60	
1		広さ・収納性			-	-	3.0	1.00	
2		高度情報通信設備対応			-	-	-	-	
3		バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.0	0.40	
1		広さ感・景観			1.0	0.02	3.0	0.50	
2		リフレッシュスペース			2.0	0.02	-	-	
3		内装計画			1.0	0.96	1.0	0.50	
1.3 維持管理					3.0	0.30	-	-	
1		維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-	
2		維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-	
1		耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
2		免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.30	-	-	
1		躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.20	-	-	
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:塩ビシート 壁:ビニルクロス		5.0	0.10	-	-	
4		空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
5		空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数の長い配管材の採用		5.0	0.20	-	-	
6		主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-	
1		空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2		給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	-	
3		電気設備			3.0	0.20	-	-	
4		機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5		通信・情報設備	通信手段の多様化、精密機器の地下設置回避等		4.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			2.7	0.30	2.4	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30	1.8	0.50	
1	階高のゆとり	<共用部分>壁長さ比率<0.3	1.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみ調和に配慮した景観計画	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.80	3.0	0.50	-	-	3.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	自動水栓・節水型便器等を採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.60	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減	QLデッキ、ニューフェローデッキ、ベースパッキ柱脚工法を採用	4.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1階スラブ下:押ポリ3種	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	軽量鉄骨下地、OAフロアの採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP<50の発泡剤を用いた断熱材を使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出量削減に配慮	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	-	-	2.3
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの一部を満足	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	